

○ 委員長報告

2月定例本会議で報告された環境保健福祉委員長報告は、以下のとおりです。

令和2年2月定例会

環境保健福祉委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、消防団広域協力体制構築事業についてであります。

このことについて一部の委員から、消防団の広域協力体制の構築にどう取り組んでいくのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、大規模災害時における消防団の広域応援体制のあり方を検討するため、消防団長や常備消防の消防長等による検討委員会で相互応援の要件や手順、活動内容等について協議を重ねてきた。

広域相互応援に向けては、被害規模等に応じ、近隣市町、東・中・南予ブロック内、同ブロック間の順に派遣範囲を検討すること等を盛り込んだ協定案を策定し、県内市町の同意を得ているところである。

また、昨年、広域相互応援の実効性を高めるため、東・中・南予ブロックで近隣市町消防団の合同訓練を実施したところであり、来年度も引き続き、消防団の組合せを変えて訓練を行うほか、消防団同士の円滑な情報共有のため、共通機種の携帯無線機の整備を行う旨の答弁がありました。

第2点は、5Gを活用した遠隔医療支援システムについてであります。

このことについて一部の委員から、愛南地域での遠隔医療支援システムの内容はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、高精細かつ低遅延で患者の映像をリアルタイムで伝送できる5G通信により、在宅医療の支援が可能となり、先ずは、医師不足が深刻な愛南地域において活用しようとするものである。

訪問診療等を行う若手の研修医や専攻医、看護師等がタブレットで南宇和病院の指導医師からバックアップを受けることにより、診断の手助けや不安解消のほか、患者に主治医が診療しているかのような安心感を与え、信頼関係の構築にも繋がることになる。

さらに、南宇和病院のCT画像等の診療情報を中央病院と共有することで、専門医から助言診断を受けられる体制も構築できるほか、南宇和病院を総合診

療専門医の研修拠点とすることで、地域に必要な医師の確保にも繋げたい旨の答弁がありました。

第3点は、新型コロナウイルス対策についてであります。

このことについて一部の委員から、新型コロナウイルスに関して、どのような対策をとっているのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、PCR検査体制は、3月12日から検査機器が2台となるほか、愛媛大学や松山市から職員の応援をいただき、1日の検査可能件数はこれまでの40件から80件に倍増する。検査が必要な重症者を優先するため、医師が感染を疑う場合は、インフルエンザ等他の疾患の鑑別を受けた上で、検査を実施することとしている。

また、県内の感染症指定医療機関では、使用可能な病床は20床あるが、一般病床で受入れ可能な病床も含め、県全体で約70床を確保できる見込みである。圏域に入院できる病床がない場合は、他圏域での受入れを調整し、軽症であれば、陰圧病床以外の一般病床でも対応可能となっている。

さらに、保育所等は1園が休園しているが、保育希望者がいれば受け入れている。幼稚園等は109園中87園が開園、22園が一部休園もしくは登園自粛の措置をとっている。各園には感染症対策の徹底を呼び掛けている旨の答弁がありました。

このほか、

- ・プラスチック資源循環の促進
- ・とべ動物園でのバイオマスの活用
- ・伊方発電所で連続して発生したトラブル等
- ・衛生環境研究所の整備
- ・若年がん患者への支援
- ・食の安全安心推進条例

などについても、論議があったことを付言いたします。

最後に、請願について申し上げます。

当委員会に付託されました請願4件については、いずれも願意を満たすことができないとして、不採択と決定いたしました。

以上で報告を終わります。